

第2回（仮称）富士宮市立郷土史博物館基本構想検討委員会

会議録

場所	令和3年8月5日（木）13:30～15:30
日時	富士宮市役所 6階 610会議室
出席者	<p><現地出席></p> <p>委員 : 植松委員、小笠原委員、北垣委員、渡井委員、 諸星委員、片山委員、山本委員 ※欠席 大高委員</p> <p>事務局 : 富士宮市文化財課 深澤氏、保竹氏、柿崎氏 オブザーバー : (株) 丹青社 真下</p> <p><オンライン出席></p> <p>オブザーバー : (株) 丹青研究所 大木、青島、外山</p>

内容

1. 開会	
○主催者挨拶および経緯説明	
2. 委員紹介	
○各委員挨拶	
3. 委員長・副委員長指名	
委員長を小笠原委員、副委員長を北垣委員に指名。	
4. 議事	
(1) 博物館基本構想の検討について	
植松委員	<p>名称を「富士宮市立博物館」としてはどうか。本委員会の意見として取り纏めて、市に報告できないか。</p> <p>新施設は大鹿窪遺跡など、テーマを絞った施設を想定しているのか。</p>
深澤課長	<p>「郷土史博物館」は事業名として設定した。富士市立博物館（通称：富士山かぐや姫ミュージアム）のように通称を設けている施設もあるので、今後、ご意見をいただきながら検討していきたい。</p> <p>郷土の歴史を総合的に紹介する施設を目指している。中心となるテーマについては、今後、議論いただく。</p>
小笠原委員長	名称は事務局案をいくつか提示し、今後の議論としたい。
渡井委員	「郷土史」というと限定的な印象があるため、用語の使い方は検討すべきである。
(2) 基本構想について	
北垣副委員長	基本コンセプトにある「人づくりの拠点」という視点は非常に重要なポイントである。

	市内の現状を踏まえながら、「人づくり」につながる特色ある活動を具体的に議論していく必要がある。
深澤課長	収集した資料や情報を、市民協働により調査・研究していくことを柱に据えたいと考えている。
北垣副委員長	世界遺産センターとの棲み分けについてはどのように考えているか。
深澤課長	世界遺産センターでは構成資産のみを紹介している。新博物館では本市の歴史という視点から、構成資産やそれ以外の歴史文化資源について紹介していきたいと考えている。なお、世界遺産センターとは共同研究などを通して連携していきたいと考えている。
北垣副委員長	地域連携の連携先として世界遺産センターが挙げられているので、連携の仕方を具体的にしておくとうい。
小笠原委員長	館の特性を明確に示す意味では、展示と収蔵の割合など、ある程度規模の考え方は基本構想に盛り込んでよいのではないかと。
諸星委員	幅広い方を対象とすることは理解できるが、特に重視すべきターゲットを設定すべきである。富士宮市では富士山学習など地域学習が小中学生で必須となっているので、子どもたちに重点を置き、地域学習をサポートできる施設としてはどうか。展示についても、子どもたちの学ぶ意欲を刺激するような内容になるとよい。
小笠原委員長	子どもたちに伝わり易く表現すると、大人も理解しやすくなる。
北垣副委員長	子どもたちをメインターゲットに教育普及を行うのであれば、そのための調査研究も必要である。将来の富士宮市を担う人づくりをするならば、富士宮市の歴史や文化を伝える人づくりもあわせて行う必要があり、そのための調査研究も必要となる。
渡井委員	「人づくり」を重視するのであれば、小中学生だけではなく大人も含めた具体的な取り組みが必要である。 富士山学習のために出前講座を行ってきたが、学校側の受けとめ方も重要である。小中学生が理解を深めるためには、展示だけではなく出前講座などの普及事業も重要である。そうした事業を博物館のなかでどのように展開していくのか具体的にしないと、4章の施設整備の考え方に結びつかないのではないかと。
小笠原委員長	体験を通して理解を深められると子どもにも大人にも良い。
深澤課長	こどもでも分かりやすく、小中学生が興味を持てる展示と表現するなど検討する。
北垣副委員長	私どもの博物館では富士山学習など、外部による調査研究を展示に活かしていることも特徴としている。大鹿窪遺跡で行われているイベントの経験なども活かしていけるとよいのではないかと。
山本委員	村山浅間神社の山開きなど伝統行事には地元の子どもたちが参加している。成人し、あらためて伝統行事に参加してくれることもある。博物館では、伝統行事などテーマに基づいた展示も行ってほしい。教えるの

	ではなく、子どもたちが現地で体験することが重要である。
小笠原委員長	館内での学びだけではなく、現地で体験できることが重要で、そのための仕組みづくりがポイントとなると思う。
片山委員	ターゲットとしては子どもたちを重視し、地域を好きになってもらうような活動をしてほしい。親子で訪れ、学べるような楽しい施設にしてほしい。大鹿窪遺跡でのお祭りでは、土器づくりや弓矢打ち、石器づくりなどの体験を提供しており、デジタル世代の子どもたちが楽しんでくれている姿を見ると、体験を通した普遍的な楽しみを、子どもたちや若い世代に提供できるとよいと思う。施設計画の検討に向け、基本コンセプトをふまえた具体的な活動を整理するとよい。
渡井委員	世界遺産富士山の構成資産の紹介も重要である。市の歴史における構成資産をきちんと紹介する必要がある。また、「歩く博物館」で取り上げている大鹿窪遺跡や猪之頭の陣馬の滝など、市内に点在する歴史文化資源も取り上げて欲しい。 P. 3の目的には富士宮市の歴史、民俗とあるが、それ以降は歴史・文化になってしまっているので、用語の使い方を整理したほうがよい。富士宮市では「やさしい日本語」にも取り組んでいるので外来語は極力使わずに分かりやすい表現にすべき。基本コンセプトやP. 3「歴史・文化のハブ（中核）」といった表現も改めるべきである。
植松委員	「歩く博物館」など他の部署で行っている事業を博物館に移管するのはやめたほうがよい。 教育普及活動を充実させるためには学芸員の数が重要であり、必要性を明記しておいたほうがよい。
北垣副委員長	博物館周辺の人々を育てていくことも必要である。
小笠原委員長	<p><まとめ></p> <ul style="list-style-type: none"> ○今後の進め方 <ul style="list-style-type: none"> ・博物館学の専門家に意見をもらう。 ・次回（10月）の委員会に向けて、委員長・副委員長・事務局で細かに打合せを行う。 ○基本構想案に対する意見 <ul style="list-style-type: none"> ・ターゲットの設定と、それを見据えた展示の考え方 ・ターゲットをふまえて力点を追うべき事業活動の明確化 ・市民参加を勧めるため、市民学芸員やボランティアガイドなど、市民の主体的な活動をサポートする人づくりの取り組み ・現地での体験に結びつく工夫 ・親子連れが楽しめる体験の提供 ・世界遺産センターや歩く博物館など、既存の取り組みとの関係性の整理 ・地域史という観点から構成資産を紹介